



8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8

30 1 2 3 4 5 6 7 8 9

20 1 2 3 4 5 6 7 8 9

6 7 8 9 20 1 2 3 4 5

4 3 2 1 JAPAN



神田辺

多町

神田多町基好社多町

文百 遊里花上十

神田多町

さつまちかがい

夕魚

葉扇子

島下門市比

赤大橋出張方々神田の大工町多町

多町

下門市比

古承者前より出

紅雲

人乃船主又大橋

胃と神田の多町」

伏木

連迎接室

叶二丁目下岸町

側町ノ石子里保比立店

大橋

比立居

桂町

云石山

庄屋ホ出比立

立

新宿

横河

山片町

庄屋ホ出比立

立

新宿

横河

山片町

下谷邊

山下

妻國集

遊里方角寺下谷山下

基保記

山下

茅庵子

生菴袖上跡山下マヨニシナヒ淨土ハ素人

生いて

ほつりとくまみちを繫の丸腰トツル

たてあ

衣裳ハ後服年々をくうトト細小數

そくけよと者とゆゑをゑやも

柳下叶敷と

ケコロバレト云

名ニ鑑

山下の里

ケコロ

トキニ小格子

トキニ小格子

夷首目録小哥

遊里元

一上上

山下ケコロ

夷首目録小哥

遊里元

上ト

ケコロ正行寺店

桃玉門通

餅店

石戸順礼山

下中唯二局小傳ノ丁山下廣街一寸間遊

六年

刻廣十路ノ丁佛店の桃灯見立てサセノ山下

新後

辛未六年刻

は土地の名物誓吉路トシテ了

遊女ちて世ふ是と踏絆トシテ便僅多月ニ局

スノリヘトモ彼の久勤牛の青革トシテ仕

モ一ト切ア用ひて奇妙絶モ不世ハニ間ニロ或

ハ九石もちて素ハ格子ノ丁遊走不世ハ少

ルムホトカラキ席丸トシテ右端と縫い室差し

き、春奉祝酒あ、事、乃ひ恐、
牛、足と流、馬、太歎とすつ
亦數も赴食百駕余、而、少ひ止
見せあ、大年間、中年行、射達
ち、かんても撫、二百文一駕、一人ニ
五、六人よ、又、竹、菖蒲、引、敷多の牛、
徒、名す、君達、年、あ、の名ハ、毒、剝、
ニ、潜、之、夏、四年、秋、上、云、
間、五年、位、あ、ある、の、あへ、衰、
あ、うへ武、壁、乞、うけ、广、被、
あ

と身代りを以て水薙や料理屋の内よ
了行旅とぞやうそとぞ行ともさうの根より
因て馬い者なまうてちとあえ立たされまと
ぬうなううう行はせふ整當にて鷹は侍
出苏町人すと人目と忍いがい声うる人直ふ鷹
古屋並山又入うてハ人目つよき故生財ハ料
理屋の水薙と行旅者多く又ハ琴勧
のうちうへ玉と酒と肴と鶏と行旅と云ふを
事れどい土地の空ひ而て考と云ふと
も別處と在れハ食る一物にて善食之を九ツ

ハツカトモおひく事めしと首い格別にて
料程重屈うと取れ大平なとおあと小付假と出
一観蓋酒とすきが出来そすか写風代と名づけて
島月二百文つと出そ是ハ吉のちきとを生す
トメテシトガ對君達の姿ハよハ袖を纏或も
青梅枝草玉儒のま襟を折り下ろし更少八
丈編綱立と一儒侍ハ能編綱者ハ全うる玉
儒の顔とあらはす正月ねり内多加五節向以
ては急仕着上そとある行ゆるをかへは玉茎
臣女の体と高きとぞ故上品ふ異とぞ

な一筋よりも中より漏れの女郎ハ庚申年の市
の頃ハ瑞ふ玉飾アリ見せとぞ形とけ石かと
落日のち所ハ本十二如九十三と大事めい
トシム婦由一弓引形と凡体と竹口と赤善ナト
と草やうすすい、山と素人らへとあてあや
んとあつた年間ちも不らとマトモ白薙ち
松石町山下伊店口不三枚格束がけ
うみ泊ニヨリけらはとよ名手ハひび津至古國
松石町山下山下伊店口不三枚格束がけ

の右ハ頭筋は軍隊モ此ナラ以切ニ百泊ハ審了
了所食飯物い衣四つノニニ是時一彭木ニ二
人清々直取足せシ。衣服ハ偏縫と禁ト。而寓
了所食事の早計ナト。音モ極小水萬屋冰波
人比賣色大方佛店ノリ。形と並んで四五十引也
アマサツト。人是已。日賤ト云け。うる姿錦糸
ヨモ。華麗ナキ豪出。ナシ。全一柄と高モ珍奇

ナリ

湯島近

大根島

本郷新町家妻園葉遊

方角圓方大根島江戸須

礼准ナ植ヘテ大根島のさ保ヘテ

大根島江戸須

唐子牛生大根島直衣四六切世淨土ハ前シハ下品

ナシ。一ノ去。永二年夏支此改ナシ。之因上額モ

人ナシハ何如セ安。但ヒ。而ナ四六是也。あそ

を人ナシ。次承。口書

上品本郷大根島牛坪。洋口

半叶淨土號の凡衣裳。下品ナシ。一ノ去。今安
秋收生。大根島牛坪。日前。あそ。の如く。

ハ引。ノ。石二盤。ナシ。付。南。鐘山五十。澣。四。

六寺と云大寺ありて 道里を 上へ 入承處下大根

高三日五更 大根

森森素大

筋白みハ跡もさうも若のない鉢本
根碑多程ち一鐘ハ上叩トゴント一聲夕音

四六時中かす間小南條の馬の隙過て人間僅立

十雙樓妓選

根高向見

大宮小臺天の星也あす度

さ千坪四六時出告それより縁ひて葉匂
の漁灯籠間形見通の古ハ廻るの船子本小
時と計て色々の小舟發ハ寺はす橋上東門に
出一と千坪の長山西鉄棒の音風かく四六是也
ハ奉音もめききもあく又雨落もハ根根根也

ちや（）てそへ客持もん事と見えずちん
かづかす高一丸吹ナハニ盤の餘吉（）た
ん事とぞい藝者とゆふすまよ稀能モ五十坡
けうこまハだんのうせ唄つて酒モニ奈是也
音ハ冬唄と歌つてゆきくゆく頬冠あま行く歌
中ちく等郭ヤツサコラサの汗を出（）たるも
町ふ枝と止え酒一拵（）さんとば引（）けんと
人をハ千坪の泊（）ふかつきも並外きつむらも
のハ南蔵一の身をもぬくとおハ天井板
と友（）か一五つやう客の藝者と婦ノ初年（）の客

ハ理墨小丸とつナ列傳の書ハ色者ちんと代
替ひまゐるの別ハもひつナ煙草ふ氣と達
す署葉やの部 葉丸や小丸や上列や上総や半
歲新舊所臣殿河原六間入居並屋多江屋轉手四
西入ロ 大豆怪付賛^{ノ通ノ}車上總臣西信法^{ノ以}
市六部の組 告岡七兵士六人真砂屋平八女八人
加藤家付在九女八濱松三花女八人大吉辰五女八人
赤曾臣牛古清門十女玉村射之清十人男藝者十組
世之部 高竹屋幸助九人末本森子清九人一人
清勝市軍二郎十人玉村射之清十人男藝者十組

人女藝者八

洋也狂節三幡對

天保七年

雨の日

物

梅園豆腐

大根細女郎屋

五勿浪

平齐子

日

天保七年七月

山の音

土佐守菊小石浦^ノ云に此乃と大根島^ノ事と
了ハ昔牛谷^ノ南方へ向ひてあと遣^シ芦田根
の雨覆^シあ^リと妙村迎^メて胡瓜^ノ身^ノへかひ^リと
至^シテ^シ立^シ或^ハ大豆の蘿^ノ作^シ日中移^シ又^シ
神田^ノチ^シ立^シ或^ハ市場へ出^シセ^シ事^シと^シが媚
家の出^シふつけて^シ迎^メ人引^シト^シ中
ト^シかひ^リ立^シうぬき大根と^シ化^シ大

根島とへすい

新島

湯島切通町辻 豊芥子曰 湯島金性流様町裏町
打曲切是也 ちくくを号と新島

此不大切留日付小聲もとうや

白山

里老曰 切是也 乃之 豊芥子曰 天和二年三月吉原
上書小物込ノミヘテハシムハシム 達近懷宝小石

川白山社北門前寛政四年三月既而亦拂

千駄木

駒込世子院門前

契園集

駒込方角琴方千駄木江

戸頭丸千駄木上移ヒヤ雪の日傳日 千駄木

サ麻子下生ヒ津土大源六ヒ居小内一外山津

ナ日書下生世子院門前テヨシヒ津土荒松

達川中高

丸山

契國策

逃女方角号於丸山

江戸頃礼

丸山やう

片錦ハ都ノ紅葉丸山 置處子 下品本郷丸山ヨク

マキノ此薄土著衣類直肠山は一人トモニ一
次
ナシヒ而シ打リテ名木盤丸山 石板の敷
五十章古老曰南村の山明小 三四十七裏新
北之株立ち丸山一ト是皆
十武侯の中间ロ道あらへ奈モ

豊芥子曰天明年

牛込市名

行願寺

牛込行願寺門前

當處子上品牛込行願寺

加原東四
カヒタタヒ津土大方面持小善の着衣裏ツ

き日一人の少一済所モ

源田同書

源田草堂
源田草堂

江戸の神社の物小山植して源一善女とあらひ
事根津上野より竹以始タガタ善始生モ

ハ踊子了萬町を下す牛込行願寺邊の方社
歌事歌アリ武子は寺社境内にて福の子と
歌ハリタハ元文の歌ハ夏保年中ヘナけモホ
不之

江戸名所百人一首

宝永年中
印本

牛込ちうきの御神



江戸二色

武花す
赤馬社
山猫も
人とぞ
うす形



赤幟

斗込等覺寺門前

契園集

遊女

方角

圖

神

赤幟

甚好

北赤幟

紫麻子

上生赤幟

三承

四承

同一切

テヨ

此津土

風儀四向流常か日一聲の結新衣裏

貴

と

お

お

お

お

お

お

人餘りさくさくはなづく相共赤山猫と云

名

錦赤幟

昔一弓の重忠の幟端

サク

江戸順礼酒

とむ奈何と赤幟の毛髮

赤幟

遊置花

上

〔春

鉛

洋

洋

洋

洋

市谷八幡

妻國某

避女方角國神市谷八幡

甚母社

市谷第ニ

業麻子

中品市谷八幡一社表四切

此淨土第ニハ人

の杜ノカトリハ今ハ下品形ニ長衰變大抵か

いふ顔

名二船

布ノ谷村

後人

弓矢の呂市ノ谷ニ集つせ

テ弦吉

名モハ

利き

選桂真

山縣

中

八幡の山

アホ拿ヒナナギ

傾拂

北女

ひま

シマシマ

物小

器

宴致稻荷

市谷教菴院門前

業麻子

中品

市谷宴致

此淨土

大極音頭み顔見人ノトハゲ

トナリ方

江戸順礼

豪駆の君ノ高カガシ水哉

豪駆

高井戸

江戸順礼

高井戸ハモリモリ吊済ノモリ

高

井戸

青山

契國宗遊三方面圖方音山

永川

筆墨通娟考
近刻五冰川國
其國者、音羽小後
きたり、不立マリ、え文の以けい、内丈
メテ赤は意、倒立経小兩國、あく人倫を
ヒ接モふナリ、元文小齊、ちら旦、一ナリ、かて延
まの江もい、再興、ちうマリ、と云ふ。

契園策 遊女方角客方 氷川甚母紀 氷川七夕句
子 上品 下主 麻布 裳 梅あはの 氷川射は津土仲町士格
よ 姫 蟹の内衣裳 あらわし 五つ身 うなぎ あらわし

送
名
鑑
冰
川
切
切
此
事
十二
丈

云
许判蛇 上上畫冰川是の神の誓ひ人を救ふ
游里元 上上告冰川女郎の魂丹八博
牛

一
都收
江戸砂子　え氷川社　侍了阿
板上杉　亨保
十五年冬。而止。南朝後
高祖。太祖。太宗。井水

川門弟遊女在朝昌の時もひあふ小糸匂ひありて
世裕奇語け川門弟遊女在朝昌の時もひあふ小糸匂ひありて

卷之三

高稻行

麻布長坂町セ本名
元業原子下品高稲荷マツヨシ此津土惣歩場小日
一宿マツヨシ名不船高稲荷マツヨシ此所小瓶マツヨシ毛色四
六ロク人ヒト移シテ江戸砂子根津神主伊吹左門村
補石湯高マツヨシ故修小高稻荷マツヨシ世裕寺法子の
ニ後主マツヨシ南又地マツヨシトシノタツノ在壇稻荷マツヨシモウミ
有アリ

神明

遠近櫻堂芝神殿門前但社内門前マツヨシ社地門前マツヨシ

昌へキ所美女一件ニテ寛政五年十二年立拂
相生藤賀張冰葉匠工弓場木地訴ヨリ取持イタ
レ住居地ニハ吉之母ヘトモ家守天首マツヨシ契園業
達女方角是年神明業原子マツヨシ中品芝神殿地内宣取
一切ナ此津土磐の内外裏若シマツヨシ大方三櫓と
主筋マツヨシ保マツヨシ人ヒト五ノ山マツヨシ而小斜是也古見也
トシナキお是也マツヨシ方マツヨシ名所鑑マツヨシ神明二条本
多マツヨシ千葉不中形是マツヨシ進里花上吉神明心矣
トサウムヒヤ湯田川

三田日相町

禁席子 村生品 三田日相町 五印四切外 比津土ハ蟹

は丸衣裏大振神のト主神ノ人かト乃シビ但

五印七印ハ人トトナニ次乃モ

日書

下品之田日

聯町 ナヨン 比津土蟹衣數号ニテナリ

人

印ナム前ナリテ引シテ御一山而小全年多居

高砂タニ念佛寺屋トシテ全年表滿ナリ

江戸因

解集覽 之メ大寛政の時ナリ而ヒ女アモ苟是也

ちミ後方拂トサシ 破芥 里老曰 は所泰昌の比

三田の通ニ引キ葉匠名ニシテ

赤羽根

契園策

遊女方角圓牛赤羽根

通人進言

川喜馬

三田

日朋赤羽根の保門前坊神岐坊

當世古撰

川喜馬

佐

安政五年刻

無為菴別也界地

四名赤坂根津冰川三田少

新松土番町

塙の系卷

赤羽根朱

稻荷堂

芝横封町

社歎莫幕桃年本

小金子皇丸化銅炮の世

界ノ稻荷堂の玉ク錦ツ社見テナシ

古人物語

五

え稻荷 寛政の頃より句見せあまへりとお婦

トウノ半芥

根芋

芝車町 芝田町九丁目ト牛町ト 横町ト
ロア圖解集覽 ト株ふ念
無桜町の湯竹、一、海濱寺の岡山念無和尚の

居り山町、半芥

室老曰

寛政の頃より切見せ河

高筋

